

2014 JCF J1 IWATE Shizukuishi STAGE (第4戦) レースレポート

BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM 齊藤 亮

+++++

大会名：KUMAOTOSHI 2014 JCF J1 IWATE Shizukuishi STAGE (XCO #4)

期日：2014年6月14日(土)

会場：岩手県岩手郡雫石町 / 雫石スキー場

天気/気温：快晴 /29℃

競技種目：男子エリート 4.2 km x 5 Laps = 21.0 km

参加数：54名

結果：優勝

Web：<http://www.846.info/>

+++++

前戦のJシリーズ第3戦富士見パノラマ大会から2週間の期間が開いての第4戦雫石STAGE。昨年J2カテゴリーとして初開催となった雫石大会は、今年はJ1に昇格しJシリーズ戦の1つとして組み込まれた。今シーズン初となる東北地域でのレース開催。雄大に広がる雫石スキー場は過去にアルペンスキーの世界カップや世界選手権大会、全日本選手権大会なども開催した実績がある日本でも屈指のスキー場。ここまでシリーズ4戦を消化してシーズン前半戦の一区切りとなる。連戦の蓄積された疲労をケアしつつ、今レースに向けて最大限の準備をして



きた。ここまで計画的にトレーニングメニューをこなし、全日本選手権へ向けた課題や目標を見失うことなく日々を過ごして来たつもり。勝たなくてはいけないプレッシャーではなく、自分のパフォーマンスを發揮できるかのプレッシャー。そういう意味ではレース毎に違った緊張感がある。

レースの数日前から東北地方を襲った雷雨の影響もあり、コースは完全にマッドコンディションでドロドロのコネコネ状態。登り下り共に滑りやすい土質で思い通りのラインをトレースし難い。選手が走れば走るほどにより難しい状況へと変貌していく・・・。コースは4.2kmに設定されており全体的にコース幅は広い。一見単調であるように思えるコースだが、マッドコンディションにより思いの外悪戦苦闘。悪条件になればなるほどMTBの基本スキルとバイクコントロール、機材チョイスが勝敗を分けることになる。前日の試走では若干脚が重く、体調もイマイチ優れないためコースを3周程走り会場を後にした。温泉で体を温め、しっかりと食事を取り、身体のケアを



して早めの就寝。レース当日も朝から雨模様……。高まるテンションとは裏腹にコースコンディションはより悪化していく。ホルメンコールのケミカル類でバイク、シューズ、衣類等の雨&泥対策を入念に行い、ニューハレテーピングで足首を固定。悪条件でも勝つために必要な準備を当たり前に進める。

男子エリートのスタートは 14 時。いつもと同じルーティンでアップを始め、集中力を高めスタートの時を待つ。号砲一発。よい反応で踏み出し、ゲレンデの直登をひたすら登っていく。焦らず冷静に。自分が走るラインを見極め前方へとポジションを上げていく。しかし激坂登りの区間はコースが荒れていてバイクに乗れず押し、押し、押し……。足首まである深く練られた泥に苦戦するものの、ニューハレ X テーピングで足首を固定しているため力強くバイクを押し出すことが出来ている。下りも田んぼ状態となっており、乗車率が低い。乗れるライダーと乗れないライダーとの差は歴然。転倒のリスクも高いがラインを見極めながら乗車して下ることを選択した。1 周目は MIYATA-MERIDA の小野寺選手とパックになって通過。2 周目の下りで転倒してしまい 20 秒ほどの差が開いてしまったが、焦らず冷静にその差を詰め追い付く。3 周目の登りで満を持してアタック。これがうまく決まり、後続とは 30 秒程の差が付いた。まだレースは序盤だが、積極的な走りを心掛け自分を追い込んでいく。マッドコンディションにはいつも苦戦するものの苦手意識はない。周回を重ねていくと自分の得意なパートや苦手なパート、毎周回ミスをしてしまうパートなどが浮き彫りになる。安全に！ではなく、冷静沈着、且つ攻撃的に攻める走り。



4 周目が終了し、後続との差は 1 分 20 秒。ここからは自分のペースでラップを刻み自分と向き合う。明らかなペースダウンはないものの、ラインを誤ったり、大きなミスやトラブルがあれば順位を落とす可能性もある。出来る限り乗車してクリアしたいが、明らかに乗れない区間も多々ある。バイクの乗り降りを何度も繰り返していくといつもと違う筋肉部分に負担が掛かる……。呼吸よりも筋肉にかかる負荷が辛く、得意の登りでも精彩を欠き思ったよりもペースを上げられない。フィードでボトルの水を飲み干し、集中力をキープ。もう後続との差を気にせず、トラブルなくゴールするのみ。ファイナルラップではスタッフからもう 1 段階ペースアップの指示。持てる力と技、気力と体力を全て出し切り、トップでゴール通過。



温かく迎え入れてくれるスタッフとサプライヤーさんの笑顔を見ると、こちらも自然と笑みが出る。献身的に支えてくれるチームスタッフ、常に最善の選択を下さるサプライヤーの皆さま。自信を持ってスタートに送り出して頂き、ゴールで温かく迎え入れてくれる。情報交換をしながら最善の選択をする作業。小さな積み重ねと向上心が今の結果に結び付いていると思う。次戦はいよいよ全日本選手権大会。1年に1度の大勝負。自分らしい走りをしたい。ゴール後に最高の笑顔でいれるように・・・。

今回もたくさんのサポート、応援本当にありがとうございました。次戦も自分らしい熱い走りができるように頑張りますので今後ともよろしくお願いします。

【リザルト】

1. 齊藤 亮 長野県/ BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM
2. 小野寺健 北海道/ MIYATA-MERIDA BIKING TEAM
3. 門田基志 愛媛県/ TEAM GIANT
4. 平野星矢 長野県/ BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM
5. 松尾 純 長野県/ MIYATA-MERIDA BIKING TEAM
6. 山中 真 愛知県/ BMC/ ONEonONE

【使用機材】

バイク：ANCHOR / XR9

コンポーネンツ：SHIMANO / XTR FC-M985

ホイール：SHIMANO / XT WH-M785

シューズ：SHIMANO / SH-XC90

ペダル：SHIMANO / PD-M980

ハンドル：SHIMANO PRO / XCR

ステム：SHIMANO PRO / XCR

シートポスト：SHIMANO PRO / XCR

フロントフォーク：SR SUNTOUR / AXON-WERX-RC-RL-RC AH CTS 27.5/100MM

タイヤ：SCHWALBE / ROCKET RON (27.5×2.1)

サドル：fi'zi:k / TUNDRA2

ヘルメット：KOOFU / WG-1

サングラス：adidas eye wear / evil eye halfrim pro / クリスタル S グラデーション

ケミカル：HOLMENKOL

チェーン：ルーベエクストリーム、 ダートプロテクター

フレーム：スポーツポリッシュ、 アクアスピード

リム、スポーク：アクアスピード

クリーナー：ライニガー、スポーツクリーン、バイクウォッシュ、クリーナー8in1

ウェア、シューズ：ハイテクプルーフ

サングラス：ノーフォグ

時計：SUUNTO / AMBIT2S

メーター：パワータップ G3 プロ MTB ハブ / ジュール GPS

ネックレス：SEV

ドリンク：SAVAS（株式会社明治）

サプリメント：SAVAS（株式会社明治）

レースウェア：WAVE ONE

レースグローブ：KABUTO / PRG-3

アンダーウェア：CRAFT

インソール：SUPER feet / Black

アパレルウェア：Columbia

ザック：deuter

テーピング：New-HALE

